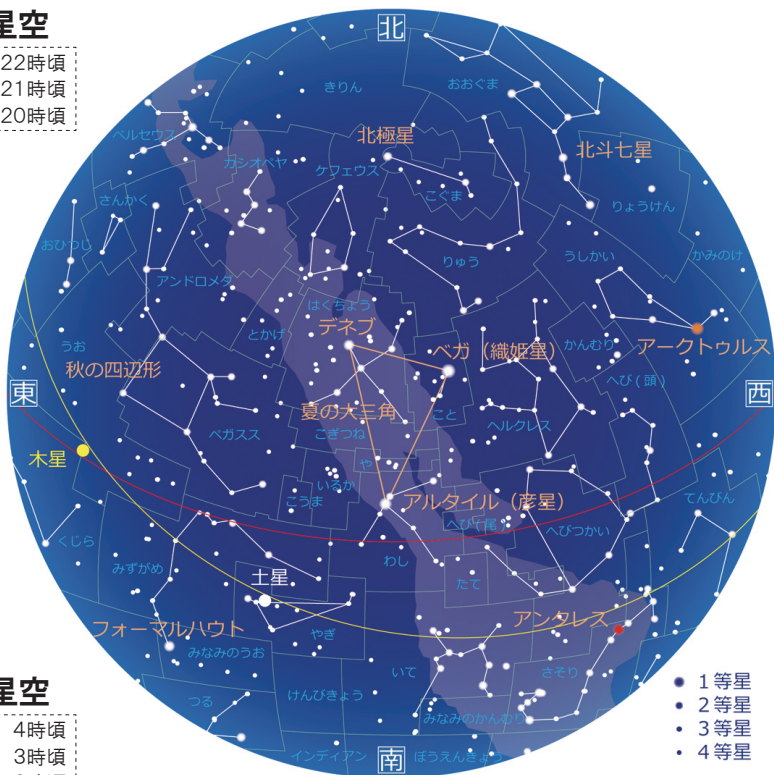


星空ガイド 8月16日～9月15日

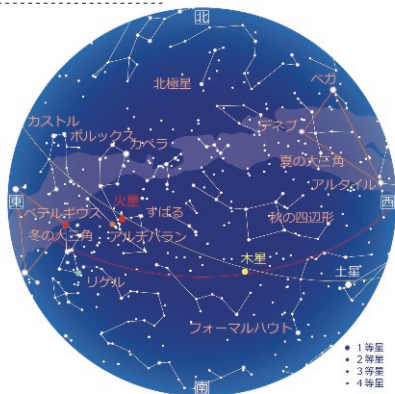
よいの星空

8月16日22時頃
9月1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

8月16日 4時頃
9月1日 3時頃
15日 2時頃



【太陽と月の出入り(大阪)】

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
8	16	火	5:18	18:45	21:27	9:31	18.4
	21	日	5:22	18:39	---	14:35	23.4
	26	金	5:26	18:33	3:57	18:17	28.4
9	1	木	5:30	18:25	10:02	21:05	4.8
	6	火	5:34	18:18	15:37	0:08	9.8
	11	日	5:37	18:11	18:57	6:05	14.8
	15	木	5:40	18:05	20:55	10:23	18.8

※惑星は2022年9月1日の位置です。

土星が観察好機

8月15日に土星が衝を迎え、観察の好機になっています。「衝」というのは、地球から見て太陽と惑星が反対の方向(経度差 180°)となる位置関係のことです。「土星が衝」ということは、太陽と地球と土星がこの順番で一直線に並ぶ位置関係です(地球の軌道面と土星の軌道面は一致しないので、三次元的には一直線ではないです)。地球から見て太陽と土星が反対方向にあるので、土星はほぼ一晩中地平線上にあって観察が可能です。また、地球と土星の距離が近くなるタイミングでもあるので、その意味でも観察の好機です。

土星を望遠鏡で観察すると、真っ先に目につくのが土星の環です。今年の土星は、環の角度が浅くなってきており、シャープな印象の土星の環が見えます。今は、毎年少しずつ土星の環を見込む角度が浅くなっていくタイミングにあたっていて、2025年3月には土星の環が見えなくなります。地球から見た土星の環の角度は、毎年少しずつ変化します。右の図は、今年と将来の土星の衝の日の見え方を比較した図です。土星の衝はほぼ1年ごとに起こりますが、スペースの都合で2年おき程度で日を選んでいきます。

地球から土星の環を見込む角度が浅くなると、カッシーニのすき間などの環の様子が観察しにくくなります。

飯山 青海(科学館学芸員)



この図は株式会社アストロアーツのステラナビゲータ10を使用して製作しました

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
8	18	木	小惑星4番ベスタが接近(5.8等)
	19	金	●下弦(14時)
	20	土	月と火星がならぶ
	23	火	処暑(太陽黄経 150°)/小惑星4番ベスタが衝/月が最近(405,418km)
	26	金	明空の低空に月と金星がならぶ
	27	土	●新月(17時)
	28	日	水星が東方最大離角
	29	月	夕空の月に水星がならぶ

月	日	曜	主な天文現象など
9	1	木	二百十日
	3	土	月とアンタレスがならぶ
	4	日	●上弦(3時)
	8	木	白露(太陽黄径 165°)/小惑星3番ジュノーが衝/月と土星がならぶ/月が最近(364,492km)
	10	土	○満月(19時)/中秋の名月
	11	日	月が木星に接近
	15	木	月とすばるがならぶ